

平成29年度「全国学力・生活実態調査（6年生）」結果の概要について

平成29年4月18日（火）に小学校6年生を対象に実施されました「平成29年度全国学力・学習状況調査」の本市と本校の結果概要についてお知らせします。

ただし、これらの調査は、あくまでもそれぞれの学校が子どもの学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的に実施されています。本調査で測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面にすぎません。しかし、結果をもとにして、学力の向上に向けた、一層の指導上の工夫改善を努めていきたいと考えています。

【本校6年生の「全国学力・生活実態調査」結果の概要】

平成29年度全国学力・学習状況調査 平均正答率（％）

教科	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	77	59	83	50
尼崎市	72	55	76	43
兵庫県	75	57	78	46
全国	75	58	79	46
全国との差	+2	+1	+4	+4

※Aは主として知識、Bは主として活用の問題

<本校の6年生の結果より> ○…成果 △…課題

国語A・B、算数A・B、ともに全国平均正答率を上回っていました。

※国語

・A問題

○昨年度に引き続き、今年度も漢字の書き取りがほぼ全国平均の正答率もしくは、それを上回っていました。昼学習での漢字の取り組みを継続した成果だと思います。今後も継続していきたいと思います。

△今年度、「グループの話し合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する」問題が出題されました。正答率は52.5%と低く、また全国平均正答率を下回りました。今後、学習の中において出題された問題のような、複数の場面を比較したり、複数の叙述を関連づけたりする指導にも取り組んでいきます。

・B問題

○昨年度の問題で、「目的に応じて、質問したいことを整理する」問題が正答率39.3%、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」問題が正答率50.4%と全国平均正答率と同等かそれより下回っていました。しかし今年度は、「目的や意図に応じ適切な言葉使いで話す」や「目的に応じて、話の構成や内容を工夫する」といった問題で、正答率が全国平均を4ポイント以上上回る結果となりました。学習の中で、自分の立場を明確にしたり、事実と感想、意見とを区別したりする活動を行ってきたことで、目的や意図に応じて自分の考えを話すことができつつあります。

△「登場人物の相互の関係や心情、場面についての描写を捉える」問題で、正答率が69.1%と全国平均正答率を約7ポイント下回りました。学習の中で、人物像やその役割を捉えることで、内面にある深い心情も合わせて捉えていくことを指導していきます。また「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」問題では、無回答率が全設問で最も高く16.5%となり、自分の考えをまとめることについて課題がみられました。国語のA問題同様、学習の中で、出題された問題のような複数の場面を比較したり、複数の叙述を関連づけたりする指導にも取り組んでいきます。また、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に気づかせる指導を行うことにより、自分の考えをまとめることに生かしていきたいと思えます。

※算 数

・A 問題

○昨年度に引き続き、図形に関する問題の正答率が全国平均を上回っていました。「平行四辺形と三角形の底辺と面積の関係を理解する」問題においては、全国平均を約17ポイント以上上回る正答率でした。また、小数を含めた計算等、「数量についての技能」を問う問題の正答率も全国平均を上回っていました。

△「資料を二つの観点から分類整理する」問題において、正答率が全国平均を下回っていたり、無回答率が多くなっていたりする結果が見られました。学習において、資料を分類整理する際に、落ちや重なりがないようにすることができることなど、資料の整理の仕方について確認する活動を指導していきます。また二次元表の「縦の項目」と「横の項目」の意味を考え、説明し合う活動なども取り入れて指導していきます。

・B 問題

○「小さい封筒と大きい封筒で手紙を送る場合の料金の求め方」の問題において、正答率が全国平均を上回っていました。学習の中で、日常生活を意識した課題を設定するなど、日常生活の事象を数理的に捉えようとする態度を育てることを意識して取り組んだ成果だと思います。また、全設問において無回答率が全国平均よりも低く、最後まで諦めずに問題を解こうとする態度がみられました。

△「日常生活の事象を、表やグラフの特徴を基に考察したり、表現したりする」問題において、正答率が全国平均を下回っていました。A 問題同様、表に示された意味や、二次元表の項目の意味を解釈し、表と結び付けて捉えるということに課題がみられました。学習の中で、表に示されている数の意味を捉え、目的に応じた表に作り直す活動を行ったり、解釈が正しいかどうか吟味したりする活動などを取り入れながら、二次元表が資料を二つの観点から分類整理したものであることの理解を確実にできるよう指導していきます。

※生活実態調査について

質問（15）学校の授業以外に普段1日にどれくらい勉強しますか。

結果：「1」（3時間以上）と回答した児童が17%と全国を上回っています。

一方で、「2」（2時間以上、3時間より少ない）と回答している児童が全国に比べ8ポイント下回り、また、「5」（30分より少ない）や「6」（まったくしていない）と回答した児童が全国より上回っていました。授業以外の学習時間が多い児童と少ない児童との差がみられました。

質問（25）携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

結果：「6」（携帯電話やスマートフォンの約束がない）と回答した児童が全国より約8ポイント上回っており、また「1」（約束をきちんと守っている）と回答した児童が全国より約6ポイント下回る結果となりました。携帯電話やスマートフォンが、全国よりも児童の自由に使える状況にある傾向が見られました。

質問（55）5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で自分たちで立てた課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

結果：「1」（当てはまる）と回答した児童が、全国より約5ポイント上回っており、また「4」（当てはまらない）と回答した児童は、全国より約3ポイント下回りました。授業では、児童が主体的に学べるような学習活動が行われている傾向がみられました。